

音や音楽を聴いて自分の思いをもち、自ら表現する授業を目指して

—イメージを膨らませる場面づくりの工夫を通して—

宮城県立名取支援学校 佐藤 なほ子

1 研究主題について

特別支援学校学習指導要領〔音楽〕の小学部3段階では、音楽表現に対する思いをもつことや曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことを目標として掲げている。

本校小学部5、6年生は、音楽の授業の中で、教師の手本を模倣したり教師からの指示を聞いて器楽演奏をしたりすることができる児童が多いが、授業の中で自由に表現する場面を設けたときには、どのように表現すればよいのか分からずにその場で止まってしまう児童の姿が見られた。そこで、児童が音や音楽を聴いて感じた思いを自分なりに表現できるようになるために、音楽の授業を通して、児童の思いを引き出していきたいと考えた。児童が自分の思いをもって自ら表現することができるようになれば、より音や音楽を聴こうとする姿勢が生まれ、音や音楽を楽しむことにつながっていくのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の内容と方法

本研究では、「A表現」「B鑑賞」の領域において、音や音楽を聴いて自分の思いをもち表現することができる授業を目指していく。自分の思いをもち表現する授業づくりのためには、個々の児童の実態に合わせた指導が大切となる。そこで、授業前に高学年部の教師12名のうち、音楽担当者会メンバーの4名で学習指導計画について検討し、個々の児童の実態に合わせた学習指導計画を立案する。立案した計画は、本校で作成している、小单元ごとの学習指導計画にまとめ、12名の教師で共有する。学習指導計画に記載した、自分の思いをもち表現させるための手立てを以下に示す。

(1) 自分の思いをもたせる工夫

身体表現の学習では、児童にとって分かりやすい場面づくりの工夫をする。器楽、鑑賞の学習では、演奏する曲や鑑賞する曲の雰囲気や教師が動作をして示したり写真や季節のものを提示したりすることにより、音や音楽から児童がイメージを膨らませやすくすることにつなげていく。

(2) 選曲の工夫

本校の学習指導計画に掲載されている曲、「おんがく☆～☆☆特別支援学校小学部知的障害者用」（以下「おんがく☆本」）に掲載されている曲、学習

指導要領で共通教材として示されている曲、自作した曲の中から、児童の実態を考慮して選曲する。

(3) P D C A サイクルによる学習指導計画の立案

新学習指導要領に基づいた「習得・活用・探究」を意識した話合いができるように、音楽担当者会の4名のうち主担当になったT1が、学習指導計画の中に何を習得するのかについて明記しておく。そうして、習得した知識・技能を活用し探究することにつなげていく。学習指導計画について音楽担当者会で話し合った後、高学年部の教師12名に周知し、共通の視点を持ち、個々の児童の学習評価を行う。その評価を生かして次時の学習指導計画を立案していく。

3 I期の具体的な取組

(1) 自分の思いをもたせる工夫

身体表現の学習では、児童にとって分かりやすい場面づくりの工夫をした。具体例としては、児童に草むらや洞窟の写真を見せて、これから探検に行くことを伝える。そのときに、草むらの中には蛇やカエルがいるかもしれないと写真やおもちゃのカエルを見せたり、途中できれいなちょうちょうに会えるかもしれないと写真を見せたりして、探検へ行くイメージを膨らませてから、学習に取り組ませた。探検に行く場面のときに、ちょうちょうが飛んでいるイメージの曲が流れる中で、ちょうちょうに見立てたスカーフを見つけて手に取り自分がちょうちょうになってみたり、何がいるか分からない草むらをおそるおそる歩くイメージの曲が流れる中で、緑の布の下に卵パックを敷き詰めて草むらに見立てた緑の道を歩いたりすることで、音や音楽から感じるイメージを持たせやすくした。I期の身体表現の学習では、小单元ごとに台本を作り、その台本に沿って繰り返し取り組むことができるようにした。その中で、児童が視覚、聴覚、触覚を使ってイメージを膨らませ、自分の感じた思いを表現できるようになることをねらいとした。

器楽の学習では、自分から音を出したいという思いを引き出すために、児童の実態に合わせて学習指導要領に基づく1～3段階の教材を準備して実践した。簡単な楽譜を見ながら電子キーボードを演奏するグループ、拍打ちをするグループ、楽器の音を出して楽しむグループの3グループに分けた。また、演奏前にエーデルワイスの花の写真を提示してイ

メージを膨らませることができるようにした。

鑑賞の学習については、鑑賞曲「シャボン玉」を学習する2週間前に生活単元学習でシャボン玉を飛ばして遊んだ。そのときの様子を写真で見せ、遊んだときのことを思い出してから鑑賞曲「シャボン玉（作詞：野口雨情 作曲：中山晋平）」を聴くようにした。

(2) 選曲の工夫

音楽担当者会で事前打ち合わせを行い、本校小学部5、6年生の実態から、ねらいを小学部の3段階に設定し、選曲を行った。

身体表現の学習では、イメージを膨らませる工夫をした場面設定の中で音や音楽を聴かせることにより、想像力を働かせて表現する児童の思いを引き出していくこととした。その児童の思いを引き出すために、表現する内容や対象を決めそれぞれの曲を選曲した。また、曲の旋律とリズムを感じ取りやすいように、音源はピアノとした。

器楽の学習では、特別支援学校学習指導要領3段階〔音楽〕「A表現」の領域でねらいとしている、簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能、身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能、教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能を身に付けることができる曲を選曲した。また、個々の児童の実態に合わせて、簡単な楽譜を見ながら電子キーボードを演奏するグループ、拍打ちをするグループ、楽器の音を出して楽しむグループの3つのグループに分けた。

鑑賞の学習では、生活単元学習で学習した内容や季節に関連する曲を選曲した。

(3) PDCAサイクルによる学習指導計画の立案

T1が立てた学習指導計画を音楽担当者会で検討し、個々の児童の実態に合わせたよりよい学習内容となるように変更を重ねながら実践した。音楽の授業を実施した日の放課後に音楽担当者会で話し合いの場を設け検討し、改善してきた。

①身体表現の学習の中で、始めは「りんごを取りに行こう」という場面づくりを考えていた。しかし、児童がりんごを手にしたときに投げってしまう可能性があることと、固形物よりも手にしたときの感触が良いスカーフの方が児童の実態に合っているという意見が出たことから、ちょうちょうに見立てたスカーフを手に取り、ちょうちょうになってみたり草むらに見立てた緑の道を歩いたりする「探検に出掛けよう」という場面づくりに変更した。

②「探検に出掛けよう」の場面において、草原でフラフープを持って友達と遊ぶ場面づくりを入れた学習指導計画を作成した。5学年は、計画通りに進めたが、6学年はフラフープを速く回しすぎて危険な可能性があることから、計画の段階で、「草原で遊ぶ」から「洞窟の中を四つんばいになって進む」に変更した。また、身体表現では、学習の始めに、習

得させたい動きを毎回1つずつ組み入れて習得する時間を設けた後に、「探検に出掛けよう」の音楽劇を始めることとした。技能を着実に身に付けることで、より児童の自由な表現を引き出していくことができると考えたからである。

③器楽の学習では、3段階のグループ分けは個々の児童に適しているか、どのような楽器が児童の実態に合っているかの2点について、高学年部の教師と小単元が終わった後に話し合いを持った。

4 I期の成果と課題(○：成果 ●：課題)

(1) 自分の思いをもたせる工夫

- 「探検に出掛けよう」では、足元に何がいるか、何があるか分からない草むらに見立てた緑の道をおそろおそろつま先で歩く児童の姿が見られた。その児童の姿から、音や音楽を聴いて自分の思いをもち表現することができたと感じた。また、音楽劇の中で設定している雨が降ってくる場面では、CDから聴こえてくる雨音を聴いて近くにあった机の下に隠れるなど、児童が音を聴いて自ら場面をつくり出している様子が見られた。
- 高学年部の教師に、自主性を大切にしたいというT1の思いを伝えたところ、教師から児童への働き掛けが減ってしまった。児童の思いを表現につなげていくまでの過程における、教師の関わり方に課題が残った。
- 鑑賞の学習では、DVDを鑑賞後、質問形式による感想発表の場を設けた。I期は、毎回、発語がある特定の児童の感想発表になってしまった。
- 器楽の学習では、楽器の音を出して楽しむグループにおいて、個々の児童の興味・関心に合った楽器を見付けることが難しかった。そこで、担当している教師と話し合いを設けて、児童が興味・関心を持つことができる楽器について検討した。

(2) 選曲の工夫

- 身体表現の学習では、音楽を特徴付けているリズム、速度、拍が分かりやすい曲（走る曲、歩く曲など）を選曲したところ、曲を聴いてから自分で何の曲かを感じて動く児童の姿が多数見られた。
- 「エーデルワイス」は、拍打ちには不向きであるという意見が5学年を担当する教師から出た。電子キーボードを演奏する児童に合わせて選曲したのだが、拍打ちをする児童には適切ではなかった。「簡単な楽譜を作成できる・拍打ちができる・楽器の音を出して楽しむことができる」の3段階全てを考慮した選曲となるよう再検討した。

(3) PDCAサイクルによる学習指導計画の立案

- C（評価）の部分で高学年部の教師の意見を聞き、次時の授業からA（改善）することができた。また、指導目標や学習内容については、小単元ご

とに評価を生かして改善することにより、児童の実態に合わせた授業づくりをすることができた。

5 II期の具体的な取組

(1) 自分の思いをもたせる工夫

身体表現の学習では、動物園に出掛ける場面づくりとして、動物の鳴き声が入っている効果音を流し動物園に行く雰囲気を出した後に、動物園に行くことを伝えた。その後、発泡スチロールで作った動物園のゲートをくぐることに、動物園に出掛ける場面のイメージを持つことにつなげた。また、6種類の動物の動きに合わせたそれぞれの曲を聴いた後に動物の動画を見ることにより、音楽と動物の動きのイメージを重ねることができるようにした。動物の動きを自発的にすることが難しい児童には、動きを表現することができている児童や教師を手本として体を動かすことを促した。

器楽の学習では、I期と同様に、児童の実態に合わせて3段階の段階別の教材を準備して実践した。楽器の音を出して楽しむグループでは、途中で集中力が途切れてしまう児童がいるという実態から、楽器を1人2～3種類、用意しておくこととした。また、行進曲である「威風堂々」の曲が持つイメージが伝わるように、教師が曲に合わせて行進する様子を見せてから、器楽演奏の練習に取り組むこととした。

鑑賞の学習では、鑑賞後に曲に関係する季節の秋に関するものを複数、児童の目の前に提示し、「○○さんの秋はどれかな？」と発問をした後に、児童が選んだものを全体で紹介することで感想発表の場を設けた。

(2) 選曲の工夫

身体表現で取り扱う音源は、当初は、動物6種類をピアノで作成する予定であったが、チーター、ペンギン、象、カンガルーの動きにあった曲をピアノの音のみで自作することが難しかった。そこで、この4種類については、動きの雰囲気を出すことができるシンセサイザーを使用して曲を自作した。

器楽の学習で取り扱う「威風堂々」は、簡単な楽譜を見て演奏することができ、拍を取りやすく、学習指導要領音楽科1～3段階全ての児童が取り組みやすい曲であるという基準から選曲した。楽譜は、「おながく☆本」に掲載されている楽譜を使用した。

鑑賞の学習では、「DVD:みんなの童謡」の中から、秋の季節に関係のある曲（「夕焼小焼」「赤とんぼ」「ちいさい秋みつけた」「たき火」）を毎時間1曲ずつ鑑賞することとした。映像を見ながら曲を聴くことができるため、児童がイメージを持ちやすくなると考えた。

(3) PDCAサイクルによる学習指導計画の立案

高学年部の教師から出されたI期の評価を生か

して、音楽担当者会で学習指導計画の再検討を行った。また、学習指導計画を基にして考えた手立てが個々の児童に有効だったかについて、音楽の授業を実施した日の放課後に音楽担当者会で話合いの場を設け検討し、改善してきた。

①身体表現の学習では、表現する動物を6種類選んだ。動物の動画を見てその動物の動きを模倣しやすいことと動きに特徴があることの2点を選ぶ基準として、音楽担当者会で話合いをした。その結果、速さのあるチーター、ゆっくりと歩く象やペンギン、ジャンプをするうさぎやカンガルー、飛んでいる様子を表すとんぼの6種類の動物に決めた。また、毎回、音楽劇の曲の順番を変えることにより、次に出てくる動物が何かということに注目する必要があるため、曲をよく聴く姿勢につながると考えた。

②今年度、コロナ禍対策として、「学年部合同音楽の授業は15分間」とし、「後半30分間」は各教室に分かれて授業を実施することとなった。器楽の学習で取り扱う「威風堂々」は、各教室に戻って授業を進めるため、学級の児童の実態に合わせて拍のテンポを選択できる方が良いという意見が高学年部の教師から出されたことにより、3種類の速度の伴奏CDを準備した。

③器楽の学習では、「威風堂々」という曲が、児童にとって聞き慣れていないことから、取り組みにくいのではないかという声が高学年部の教師から出た。そこで、休み時間や給食の時間などに、「威風堂々」をバックミュージックとして流す時間を設けることとした。

④器楽の学習では、楽器の音を出して楽しむグループの児童の興味・関心に合わせた楽器を教師が自作した。透明なペットボトルの中に様々な色のビーズを入れることで、音で感じる聴覚とビーズの動きを見て感じる視覚の両方を楽しむことができるようにした。また、様々な大きさのペットボトルを用いて楽器を自作することにより、鳴る音の違いも楽しむことができるようにした。

6 II期の成果と課題(○:成果 ●:課題)

(1) 自分の思いをもたせる工夫

○ 動物園のゲートをくぐることと動物園をイメージする音（動物の鳴き声など）を聞くことにより、今から動物園に到着して動物に会いに行くという児童のイメージづくりにつなげることができた。

○ とんぼの曲を流した後にとんぼの動画を見せて、「とんぼになってみよう」と言葉掛けをした。その後、自分の腕を羽に見立てて小刻みに動かす児童の様子が見られた。また、うさぎの曲を流した後にジャンプするうさぎの動画を見せたところ、カー杯のジャンプをする児童の様子が見られ

た。児童が感じ取った思いを曲と共に表現できたと感じた。回数を重ねる度に、曲を聴いて体を動かして表現することを楽しんでいる児童の様子も見られるようになった。

- 器楽「威風堂々」の演奏に入る前に教師が行進をして見せることで、児童は拍を視覚から捉えることができた。また、休み時間に「威風堂々」を流しておく、自分から行進する児童の姿が見られた。演奏をするときに、行進のイメージと曲が結び付き、拍打ちをすることにつながった。

- 鑑賞後に、秋に関するもの（すずき、柿、くり、コスモスなど）を見せ、「○○さんの秋はどれですか？」という発問をした後、児童に選ばせた。代表児童に選ばせる前に、児童全体に秋に関するものの紹介をした方が良かったのではないかとという反省が高学年部の教師から出た。児童が選択しなかった秋に関するものについても児童全体に紹介し、学ぶ機会にすべきであったと感じた。

(2) 選曲の工夫

- 身体表現の学習では、うさぎのジャンプを表している軽やかなリズムの曲、チーターの速い動きを表した曲、象が一步一步、力強く歩く様子を表した曲を選曲したり自作したりした。児童に見せる本物の動物が動いている動画を決めてから、曲を選曲したり自作したりしたことにより、動物の動きに合った曲となり、児童が表現するときに曲のリズム、速度、旋律を感じる児童の動きが見られた。

(3) P D C A サイクルによる学習指導計画の立案

- 身体表現の学習では、音楽担当者会で話し合っ て決めた6種類の動物は、動きに特徴があるため、児童が表現しやすく、授業内で繰り返し取り組む種類数としても適していた。
- 器楽の学習では、音を楽しむグループに1人2～3種類の楽器を準備しておくことにより、集中力を切らすことなく音を楽しみ続けることができた。筒状（大きめ・小さめ）の中に小豆を入れた楽器、2～3種類の大きさ別の透明なペットボトルの中に様々な色のビーズを入れた楽器と、児童の実態に応じて、自作楽器の種類を変えた。
- 器楽の学習の「威風堂々」で使用した伴奏CDについては、速度を3種類用意したことにより、5学年は遅めの速度で6学年は普通 の速度でというように、学級の児童の実態や学習進度に応じて選択し、学習に取り組むことができた。速度は、拍を打つ段階の児童にとって大切な音楽の要素となるので、児童の実態に応じて速度調整をしたことは、児童の技能習得において有効であった。
- 休み時間や給食の時間などに、「威風堂々」をバックミュージックとして流したことにより、音楽の授業の中で抵抗感なく「威風堂々」の曲を受け入れる児童の様子が見られた。

- 個々のC（評価）を把握する時間を取れず、A（改善）につなげられないことがあった。話合いの時間を設けることが難しいときには、紙面だけの意見交換でも良いので、C（評価）を把握することが必要であると感じた。
- 高学年部の事後検討会で、器楽の学習の1～3段階は分かりやすく系統性を考えて指導することができるが、身体表現の学習の2～3段階は系統性をどのように考えて指導していけばいいのか理解を深める必要があるという意見が出された。今後、2～3段階の学習内容の工夫を明確にする必要がある。

7 1年間の総括

(1) 研究の成果

視覚、聴覚、触覚からアプローチをした場面づくりをしたり、曲が持つイメージを教師が動作をして示したり写真や季節のものを提示したりすることにより、児童が音や音楽を聴いて思いをもつことができるようになった。選曲の工夫では、各領域の学習において適した選曲をすることにより、習得する知識・技能が身に付きやすくなるということが確認できた。PDCAサイクルによる学習指導計画の立案では、個々の児童の学習評価を次時の授業に生かしていくことにより、個々の児童の学ぶ力が少しずつ伸びていく姿が見られた。この3つの手立てを実践することにより、[知識及び技能]が更に身に付き、[思考力、判断力、表現力等]である思いをもって表現することにつなげることができた。

(2) 今後の課題

音楽科の目標[思考力、判断力、表現力等]にある「感じたことを表現する」を達成するために、児童がイメージを持ちやすい生活に基づいた音楽劇を増やしていきたい。また、音楽科の目標[知識及び技能]にある「感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付ける」を達成するために、個々の児童が目標を持って取り組み続けることができる器楽の学習の在り方について、更に模索していきたい。

【引用・参考文献】

- 1) おんがく☆～☆☆特別支援学校小学部知的障害者用（文部科学省著作教科書小学部音楽科）
- 2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター：『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』小学音楽 2020